

短歌 (はなさい短歌会)

われらみな紅き羅漢ぞ夕焼けを浴びつつ精霊舟を曳く時
西窓の夕暮れ時のかけ籠居間に届きし清風の陰
金メダル獲得をした晴れ姿笑顔の中の感激の涙
炎天の三十五度は身に悪い 日差しを避けて当分我が家
スリットは昨夜の風雨のなせる技 花裏チラリ見せる朝顔
ふたごころ隠れもあらず半夏生風の地平にありてき揺らぐ
猛暑の日々を楽しむように浜木綿の花は大きく誇らしげなり
先見据え入る日の如くあかあかと青年の夢今果たさんと
大物もトブ板踏んで選挙戦逆風厳し怖い有権者
風鈴をそよると揺らす風欲しや庭を横切る猫も細りて
八月は日本の忌日原爆忌 終戦の日と重く静かに
凌霄花の朱は万の魂の灯か空青々と原爆忌の朝

南 史郎
篠原 順子
東郷ミイ子
中園 茂甚
篠田 紀子
肥後 洋子
江蔵 成子
下戸富美子
内山 幸夫
松原ひろえ
渡辺クミ子
西 恭子

短歌 (南船志布志短歌会)

ひと言が深夜をつくったかにかくに一睡もできぬ恋と云うもの
老い二人大海原を庭として語らう佐多の小さき漁村
被災者の顔のほぐるるひとときの傷多きお城のライトアップさる
文化祭三年前に小さな賞を忘れし頃につわぶきの貌
草とりも出来ぬわたしを労ひて花咲かせたり小さきたんぼほ
いつしかに形変えつつ流れゆく雲あり人の心のごとく
弥陀仏の細き御目と重なりていまわのきは母の面ざし
改めて今ここにある思いこそ我道しるべ皆と共にと
人生の重み一ツずつ忘れゆく貴方の無心な笑みに涙す
山間に暮らす我なりテレビから押され引かれて時代遅れ知る
小雨降りパシッパシッと音のする雨の雫に朝餉飽しく

暉峻 康瑞
池ノ上一枝
川井田登志子
林 静子
平川 澄子
益倉 睦美
松下 芙美
松元 文子
宮原 順子
山田 和子
山元ハツミ

伽倻 (志布志川柳会)

美味そうに 顔いっぱいで スイカ食う
パイキンググ しゃべって食べて ママ達者
飽食で 平気で捨てる 食べ残し
なぜなぜと くいさがる子を もてあまし
うっかりと つぶやいた名が ひと騒ぎ
うっかりと 歳を取るのを 忘れてた
君が代に 感涙むせぶ 金メダル

高田 昭秋
江藤 房子
上東マキエ
赤池 忠重
末永 一雄
高田 秀雄
内山 幸夫



Japanese Poem of 31 syllables
Haiku Poem Comic Haiku*

～『志』・季・折・々～

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真でご紹介します。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：満月】

